明治三十二年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回
明治二十一年十二月二十八日内務省許可（廿日發行）

大正四年六月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百七號

婦人衛生雜誌

第三百七號目次

大日本婦人衛生會

例會通知

來る六月十九日(第三土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通共立女子職業學校内に於て本會例會を開き左の講演有之候間御知友御誘引御來會被下度候也

一、「ペスト」に就て　醫學士　伴野末治君

一、演題未定　醫學博士　島嶺徹君

大正四年六月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんとを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んをいと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を怠らざるもの〻如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の講義演說談話を乞ひ且に相研究し尚之を記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗槪を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衞生會規則摘要

（明治卅一年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知すべし死亡する親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は[illegible]會に推薦員を置き其中より總裁一名[illegible]す●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名[illegible]評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に依り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし●第十二條　會長は本會務を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事長は會務を掌理し評議員は[illegible]る會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜誌等を掌る幹事の分課[illegible]設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　[illegible]●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衞生上の講義演說談話を囑託し會員をして之を聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を會場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計幹事の檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々[illegible]●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を本會に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべし而して地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送付設として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號一〇六〇〇番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衞生會

婦人衛生雜誌第三百七號
(大正四年六月二十日發行)

講演

結核の有無輕重

醫學士　佐々木秀一

唯今は海軍のお話で却て面白い事であつたと思ひます、私の御話は人間と人間との戰でなく人間と結核の黴菌との戰爭のお話であります、併し人間と人間の戰さも大變ですが、黴菌と人間との戰爭も隨分容易ではないので、それが爲に無數の人類は悲慘な憂き目に逢つて居ります。

で私の演題は結核の有無及輕重と書いてございますが、此有無と申しますと詰り結核の病氣に人がなつて居るか居らぬかと云ふ意味合になりまして、輕重とは病氣に罹つて居るとして夫が重いか輕るいかと云ふ事にしてお話しやうと思ひます、然し勿論皆さんが醫者になられるのではありませぬから、何も肺病の人を見て其病氣が輕いか重いかと云ふことがお解りになる必要はありませぬ。けれども私の今日御話する肺病の有無輕重と云ふ意味と平常皆樣のお考へになつて居る事と少々違つて居るかも知れませぬので、兎に角自分の考だけを成るべく平易にお解りになるやうにお話して見たいと思つて居ります。

先づ話の順序として結核病の起り方即ち結核の病理と云ふやうな事を極く簡略にお話を致して置きたいと思ひます。それで結核の病理を御話する前に、私は先づ「腫れもの」の事を説明しやうと思ひます。すると結核の説明も容易に出來て御了解が仕易いと思ふのであります。腫物と申すは顏や脊中によく出來る瘍とか疔とか云ふやうなもので可なり多い病氣でありますから隨分皆樣の中にも一度や二度おやりに

なつた方もおありでせう。此腫物の出來る原因は皮膚に肉眼では見えぬやうな小さな傷が出來ました際に化膿菌と申して膿を拵へる黴菌が此處から入り込み、毛孔の奥の方で段々繁殖するのであります。言換へれば身體の中に外敵が侵入して參つたのである而して惡い黴菌は一般に毒物を分泌する力を有つて居ります、結核の黴菌も一種の毒素を拵へれば化膿菌も又他の種類の毒素を拵へるのであります。故に黴菌の繁殖した場所には其周圍にも毒物が出て參ります、是が恰度戰で申しましたならば黴菌が宣戰布告をしたと云ふやうなもので此宣戰布告に對し身體の方でも默止つて居る譯に行きませぬから早速兵隊を差向けるのである、身體の方の兵隊で歩兵とでも見るべきものに白血球と申すのがありますが、此白血球が活動を開始して化膿菌の繁殖した場所に無數に集合して參りまして黴菌を喰殺す任務を有つて居るのである、人體内の自然の作用は誠に不思議な程うまく出來て居ります（圖略）。斯く白血球が無數に此戰場に集合する結果何う云ふ事が起るかと申すと今まで平らな處であつた皮膚の一部分に斯くも無數に餘計な物が一杯に侵入し割り込んで來るからして此戰場は容積が增して來て膨脹がつて參ります、然かし黴菌の方でも中々勇敢ですから通例此戰爭は益々烈しくなつて黴菌の方も負けないで新兵をどしどし繁殖させ又毒物をもどし／＼分泌します。體の方でも之に應じて戰場に歩兵のやうな白血球を送る、砲兵のやうな血清を送る、兵糧として血液が多量に此部分に集まります。其爲の腫物の部分は赤い色を呈し火のやうに熱くなる、平面よりも盛りあがつて高くなつて來る、さうして狭い場所にいろ／＼の物が押込んで來て堅くなつた爲に其刺戟で痛みが參ります、さう云ふやうな狀態を炎症と申します、それからして斯くの如く平な靜かな場所に今迄無かつた白血球などが無數に割り込んで來て堅くなつて來る有樣を浸潤と申します、即ち腫物の場所には炎症が起り浸潤が起るのである、次に腫物の治り方を一寸

申して置きたいと思ひます、先づ第一に腫物の輕い時卽ち黴菌の方が大に弱くて人體の方が著しく强かつた場合は俗に「散る」と申して別に膿みもせずに癒つて仕舞ふ、黴菌は白血球の爲め、皆喰平げて仕舞つて事無く治まつた一番都合の好い場合であります併かし多くの場合にはさうは參りませぬ、黴菌の力が割合に强くつて却々平らぎません。さう致しますと前に述べた通り强い炎症が起り、浸潤が盛に出來て、黴菌の侵入を防ぐ爲めに堅い城廓を築くので、此硬結部から先きは黴菌が幾ら來ましても侵入が出來ないと云ふやうな工合になります。斯く黴菌を袋の內の鼠のやうにして仕舞へば戰爭は勝利に向ふので、浸潤の內部では漸次黴菌が死んで參ります、又白血球の戰死したのが無數に蓄積して參ります是が卽ち膿でありまして硬結の中央は漸次軟かいブクブクになつて來る途に皮膚が破れて內部の膿が出て段段に癒つて仕舞ひます。然かしながら若しも此腫物の場所が惡いとか又は此皮膚が非常に厚いので、中中外に破れて來ない、切開手術も仕ないで置いたと云ふやうな場合ですと黴菌が此城廓の一部分を破つて血液內に侵入を始めると腫物も却々容易な事ではありませぬ、其次に全身病となつて膿毒症を起して死ぬやうな事になる、彼の有名な話でありますが、徳川家康公が陣中に腫物が出來まして、總ての醫者が治療を施したが治らなかつた。すると灸を据えて癒すと云ふ者が出て來たので、それに行らせたら宜からうと御薦しました時に、家康公が曰ふに、今多くの醫者が診て治らぬと云ふのに、そんな灸點を試みるなどは死を惜むに似たり、斷じてしないと然かし切腹の覺悟で薦められた爲めにさう／＼灸を据えて丁度現今の切開法の下手なやり方をした譯になつたので此處が破れまして膿が出る、膿が出れば直ぐに快つたのであつた、以上で腫物の病理を申上げましたが是で、是からお話しやうとする結核の病理に就ても大變に話が樂に出來ます。

肺病と俗に申すと直に肺結核の事のやうに致します

し又は結核と言ふと直に肺結核だと云ふやうになつて居ります、と云ふのは肺が一番餘計に結核に罹ります爲めであります、で結核の黴菌が何うして肺の中に入つて病氣を拵へるか其肺にまで入ります筋道に就きましては是は却て難ケしい事で、今まで多數の學者がいろ／＼に研究して居りますが、まだ明かに定まつては居りませぬ。唯結核の黴菌を吸込みさへすれば肺に入ると云ふことには限らぬ食物の中に結核菌が入つて居て、消化器から遠い路を廻つて行つて遂に肺結核を起こすこともある、又た齲歯の孔から結核菌が這入つて淋巴系を經て肺に行くこともあります。此傳染の徑路の御話は略しまして、兎に角結核菌が肺に病氣を作つたとして、御話をします前に述べた、腫物の黴菌即ち化膿菌は丸い形で球菌と申しますが、結核菌は細長い桿菌であつて、且つ化膿菌と違ひますのは發育が非常に遲いことである極く近い例を申しますと此化膿菌は培養基の上で僅か一日で一匹の黴菌が何千、何億か分らぬまでに殖えますが、結核菌の方は一日では迚も解りませぬ、二日でも分りませぬ、三日でも分らない早くて一週間通例は二週間遲くて一月以上もかゝつて漸く盛んな發育になるのです。であるから化膿菌で起る腫物の場合でありますと三四日か一週間も經ちますと腫れ上つて參り、十日も經てば切つても宜い位になる切れば直ぐに癒るのであるが、それに反して肺結核の方は却て斯んなやうな工合には行きませぬ。第一場所が奥深い肺の中ですから外表から肺に達する迄にどう廻つて如何なる路で行くか知れず從つて肺病に罹つたと定まりましても時日が何の位經つたかと云ふことは見當が付かない或は何年ですか或は何十年ですか、時に依つては隨分早いこともあるし、又時に依つては非常に遲いこともある、概して非常に悠然／＼と行つて來る。それに脊中や顔に出來ます腫瘍とは異つて、肺の内部のものですから表から見る譯には無論行きませぬ。然しながら結核の病理上の關係は腫物と勿論異ひは異ひますが能く似て居り

ます、即ち先づ肺臓に結核の黴菌が悠然〳〵と繁殖を致しますと腫物の時と同じ樣に此處に黴菌の毒が出てまゐります、宣戰が布告されたので、そこへ以つて來て身體の兵隊がずん〳〵集つて來る。(間略)然しながら黴菌の方が緩慢であるから、兵隊の防戰も從つて極て緩慢である。併しながら此緩慢な戰爭が初まりますと此處に先程申上げた樣な炎症を起して來るのである、然し緩慢ですから慢性の炎症であります、次に粘液の炎症は加答兒と申し、例へば鼻の中に炎症がありて鼻汁が出ると是は鼻加答兒と申し、咽喉に炎症が起ると咽頭加答兒、氣管枝に炎症があると是は氣管枝加答兒、肺炎と申して肺の頭になる部に炎症が起ると肺炎加答兒と云ふのでありますが、結核病は兎角に此肺炎に起り初めまして此處に炎症が起り、所謂肺尖加答兒になります是が肺の結核の抑々初であります、此肺尖加答兒の起りますまでの其以前の戰さは何年續いたのか解らぬ。一向電報もなければ何の症候もないので一寸とも解らない。さう云ふ時代を俗に潛伏期と申し病氣が潛伏して居る時代でまだ病氣になつて居るのぢやなく、まだ表に何の解るやうな點が無いのである。然るに肺尖に此加答兒を起して來ますと、病人自身には判らなくとも醫者の手に依つて聽診器をあてゝ見ると加答兒のある處は其音が違つて聞ゆるので、是は慥に體の中に戰さが始まつて居るなと云ふ事が解るのである。併ながら斯う云ふ風に肺に加答兒が起ると間もなく、或は加答兒と同時に其處に前にお話したやうな浸潤が起つて來る、すると肺炎の浸潤と云ふ名前が附きます、或は此の浸潤が大變堅くなつて來る此時は肺尖の硬化と云ふ事があります。然かしながら腫物の黴菌と異つて結核菌はヂリ〳〵と進みまして、折角堅固に築いた浸潤も往々にして破られまして、其破れた部分に又新しい城廓を築くと云ふ風に漸次進みますから、結核の浸潤は不規則な格好になります。其上、肺臓と云ふものは一刻も休む事なく一生涯、呼吸運動を營む機官で、安部に仕惡いもの

ですから治癒に向つては都合が惡いのです。而して腫物だと浸潤内部は次で膿んで參りますが結核の浸潤の方では乾酪様の變性と云ふのを起し、是が破れますと、外表と異つて外に出る所が無いから氣管枝の内に出る。すると結核菌は痰と共に初めて口の中迄出て來るやうになる。又此際、肺の血管が破るれば血痰が出たり喀血が起つたりも仕ます。

是で肺結核の起り具合の大體が判つたと致しまして之から肺病の輕るい重いと云ふ事に就てちよつと申上げます。腫瘍は俗に申す散つて癒つて仕舞ふ事のある如く結核の方にも極く輕るいのになると散つて治ることがあるかも知れない。然かし腫物でも散つて癒る事は滅多になく大概は膿むのですが結核の方には夫よりも尚ほ散つて癒ることは滅多に無いらしい、然し二三學者の研究に依りますと、肺の結核の極輕いのは存外手輕るに癒るらしい所がある、それも一程度進行した上はどうしても散つて癒る事などはない。

然らば少し重い肺病は如何なる狀態になつて行くかと云ふと是は腫物のやうに決して俄に癒らないゆるゆると防戰の城廓を堅く築いて、堅固な浸潤の中に結核菌を包み込んで仕舞へたならば微菌は其先きへ行くことは出來ず。無害な形になつて居ます。腫物では、そんな風になる事は殆んどない。それからしてもう一歩進みました肺病だと浸潤の内部が軟かになり先程申上げた通り氣管枝の方に破れて浸潤の内部が悉く外部に出て仕舞つて、其跡が幸に漸次癒つて行つたり、又は癒らないで結核菌が絶えず痰の中に出て居るのもあります。更に進んだのになると結核菌が血液の中にどし／＼出て來て、爲に結核症が廣く一面に進むと云ふやうな狀態もあります。病理的變化の上から結核の重い輕いを云ふ外に臨牀上の輕重もあります。其内で一番著しい症狀は發熱の有無であります。單純な腫物でも往々にして相當の熱が出る。結核病に於きましては此熱が大事な徴候になつて居りまして、甚いのになると朝はすつさ低く

つて三十七度位、晩方には四十度からに熱が上つて發汗はする、食慾は進まない日増しに衰弱します。輕い熱だと三十七度二三分で注意しないと判らないやうのもある、此發熱はやはり結核菌の製造した毒物に中てられる結果であります。結核の輕重と云ふ事は此位にして置きまして是から結核の有無と云ふことに就てお話を少々致したいと思います。

例へば今此處に一人の人がございまして、此の人が肺病に罹つて居るか居ないかと云ふ事を何うして見定めるかと云ふことを先づお話します。若しも病人の顔が非常に蒼ざめてさうして痩せ衰へて咳をごほん／＼して居ると先づ誰しも肺病だらうとする。醫學の進歩しなんだ昔では肺病の鑑定法は先づ此位なものであつたでせう。然し今日では種々の診斷方法が出來て居まして其内で一番確實なのが病人の痰を調べるのである。若し痰の中に結核の黴菌があつたのならば例へ其人が如何に肥つて居やうが、餘り咳は仕なからうが又熱は無からうが結核と云ふことに間違はありませぬ。それから次に今度は痰の中に結核菌はないとしても醫者が患者の胸の上を打診と申して打つて見る。すると浸潤のある場所は音が異うので直く解るのであります、又其部を聽診と申して聽診器で聞いて見ると呼吸の音が違ふので容易く解り、是は肺病であると云ふやうな診斷を下すのであります、併ながら肺のずつと奥の方で、表てから叩いても音の通らぬ所、或は聽診器で聽いても音は聞えぬと云ふやうな極く中の方に變化があつたならば是は一寸解らぬ。併ながら幸にして此頃はエツキス光線と云ふものがあつて、それで透して見ますと存外良く判りますので近頃は肺結核の有無を見る一つの手段になつて居ります、(レントゲン寫眞供覽及說明省略) 併ながらＸ光線でもまだ解らないと云ふ位の肺結核はまだどつさりある、俗に肺結核の初期と致して居ります彼の肺尖加答兒も著明なのは判るが、疑はしいと思はれる程度のは多數ある。又其疑はしい位迄に達する年限も何年位かゝつて居るか解

らない勿論病氣のやうな様子は其間には全く無かつたりする。でありますから實際は既に肺病であつてもそれは健康と見なければならぬ熱があるのでなし咳が出るのでもなし、食事が進まぬでもなし、勉強が厭になる譯でもなし、普通の通りに行つて居るので、病氣とは思はれない、偶々感冒でも引いて何んだか工合が惡るいと云ふので、醫者に診て貰ふと肺尖に少し加答兒があると言つて、能く注意するやうにと云ふ事を言はれる、斯く注意されてそれを抛り放して置くと皆惡るくなるかと云ふと決してさうでもない。それで以つて若し體の工合が能く行けば癒らないと云ふ譯でもなし、まあ譯の解らない狀態であります。と云つて輕い結核なら皆自然に癒つてゞも行くかと思ふと中々さううまくは行かず、中には比較的歩の早い結核病もございまして存外輕いと思つて油斷して居ると數月或はもつと烈しいのは一月位で惡くなると云ふ事もあるし、又二三年は何ともなく行く事もある、それは種々様々でありますが、其一程度進んだ重いのは所謂不治の病であつて如何にしても目下の所では癒す譯に行きませぬ。斯かる次第であるから、肺病は其初期に於て診斷を下だし適當な治療なり攝生をするより仕方がないので醫者の方でも斯かる時期が研究の上及治療上にも興味が有るのです。次に結核の潜伏時期で、少しの病狀も現はれぬ時期に結核の有無を見別ける方法があるかと云ふと、それがございます。卽ち「ツベルクリン」の反應と申すのを試驗するのです。此「ツベルクリン」と云ふのは結核黴菌が拵へた毒素でありまして此毒素は不思議な性質を有して居る。卽ち全然結核で無い者には殆ど毒にならないところが、若し結核に罹つて居る者に之を用ゐますと甚だしい毒作用を呈し、稍多量に注射でもしやうもんならそれこそ大變な事になる、急に強い熱が出る病狀が增惡する、甚しいのはそれで死ぬこともあるのです。然しながら之を害にならぬやうな方法で結核患者に用ゐますと初期の患者なら隨分良い治療上の成績をあげられ

ます。又此「ツベルクリン」の上述の不思議な性質を利用して結核の診斷が出來る。即ち「ツベルクリン」を種痘と同樣な方法で皮膚の上に一寸植ゑて見る、さうすると健康な今まで結核に少しも罹つた事のない人だと其部に何の變化も起らないが若し一度結核になつた人であると其處の皮膚が腫れ上がる。併かし別に其部が痛くもなく、又此試驗の爲に熱も出ず病狀を惡くもせず大變都合の好い方法で、あつて結核に罹つたか否かゞ直ぐ解るのである。此方法は結核の皮膚反應とも又ピルケー氏の反應とも申し結核感染の有無を間接に證明すべき最銳敏な方法で御座います、(中略)此ピルケーと云ふ人は小兒科の醫者であつて多數の小供に就いて之の方法を以て、小供が結核になつて居るか否かを精細に調べられた。すると其結果は啻に小兒結核の診斷が良く出來た許りで無く興味ある一種の事實が證明されるのに至つた。即ち生後一歲位の子供には此反應の起る者が甚だ少ない(圖表省略)、換言すれば結核の感染數が大に少ない。二歲の子供になると結核が一歲の子供より多い、三歲、四歲と漸次、反應の起る數が增えて來て十歲位になるとずつと多くなる。百人の小兒を試驗すると四十人五十人も結核の反應が起る、十五歲から二十歲位になると百人の試驗で七十人、八十人、九十人と云ふやうに多數の者に反應が起る。之を他の意味で申しますと青年乃至成人の大多數には結核の反應が起る。皆肺病であると云ふ有樣である然しながら此反應の起つた者が悉く病人だと云ふのではない、結核に罹かつたには違いないが此位なのは病氣とするに足りないと云ふ程度の者も多數ある或は潜伏期で全く分らない位の者も多い。然しながら其內には實際著明な病變を持つたのも勿論ある、又醫者が診察すれば明かな病變を認ても其人自身は何の異狀をも感じないのもある。斯かる次第故、結核の有無判斷と云ふ事は容易なやうで其實中々面倒な、むづかしい事だと云ふ事がお判りになつたと存じます。學校で入學試驗の時に體格檢査をし又は會

社で人を採用する場合に體格檢査をして結核患者ははねるのですが、若しも病狀を呈しない者で結核の反應のある强壯な者も皆いかぬと言うことになると殆んど使ふ人は無いやうになるし、又症のよくない肺病患者が健康なものと混合して居ると非常に危險がありまして、其兩者の境界を定めると云ふ事が甚だ難かしい、是は多少專門の知識を有たないと一寸其鑑別が出來ませぬのであります。それで私の今日皆樣に特に御注意致して置きたいのは此結核の有無輕重と云ふ事の意味にも幾らもあると云ふ事で只結核感染をした者又は潜伏結核の者ならば世の中には實に無數にある、其中の何割かゞ、不攝生とか、他の病氣の後とか、再三感染を重ねるとか種々の原因で本統の肺病になり、其本統の肺病の幾割かは不治の肺病になるのである。又輕重に就ても色々あつて病變上の輕重、臨牀上の輕重の外に又感染危險の上の輕重もある外觀などでは一寸判らない、好い顏をして痩せて居て、咳や痰が出て居ても肺結核でない者は多數ある。鼻が惡くても咽頭が惡くつても咳や痰は出る、其痰を幾ら調べても結核の黴菌は無い、然る時は結核傳染上には一向危險ではない、ところが夫と反對に榮養は良く、顏の色艶も良い人で恐らく何人が見たつて肺病とは思へないやうなそんな方の痰を調べて見て恐ろしい程結核菌が入つて居る事がある。是は「チフス」や「コレラ」病に菌携帶者と云ふのがある如くに又肺結核にも斯の如き菌携帶者があるのである。さう云ふのを知らないで例へば電車の中で込合つて鼻をつき合はして咳を仕合つて居るなどは實に危險であります。幸に座席が一つ明いて其處へ腰を懸けられて大變都合が好いなどと喜んで居ると其前に立つて居る人が危險な結核の菌携帶者であつて咳をしたりすれば腰を懸けて居た人の顏の前に黴菌が飛んで來る、立つて居た方が却つて幸であつたかも知れない、目下結核豫防會なども出來て種々骨を折つてゐられる中に、此電車の込合を平氣で放任して置くなどは都市の公衆衛生上大な

る缺損であります。是で隨分話は長くなりましたけれども併かし極て解り易いやうに結核の有る無しと云ふ事と病氣の重い輕るいと云ふことに就て略ぼ御了解かあるだらうと思ふのであります。(完)

開戰前後に於ける歐羅巴の消息

芳我石雄

これは昨年十一月の例會に於ける講演の概要でありまして、既に半歳を過ぎましたが、歐羅巴の戰爭は今尚ほ酣にして如何に成り行くか殆ど見當のつかぬ今日、開戰前後に於ける獨逸の狀況を回顧するも亦興あることゝ思ひまして茲に掲載することゝ致しました。(編者)

西暦千九百十四年(大正三年)六月二十八日の夕、私は伯林の郊外を散歩して歸宿すると、墺匈國皇儲フエルヂナンド大公がボスニア州でセルビヤ人の爲に暗殺されたといふ號外が、突如として全伯林人を驚かし、市民はさながら自國の皇太子が殺された樣に騷いだのであつた。併し事を好む獨逸皇帝もその閣員も平生に反し深き沈默を守り、一言の評論を試みなかつた。心ある者は何れも異樣の感に打たれたのであるが、後より考ふると獨逸政府は既に此時より開戰の覺悟あつたものと首肯された。恰も吠る犬はいざといふ場合に尾を卷いて逃げると等しくモロッコ事件の場合の如く評論に喧しき時は最後の決心はなかつたのであるが、今回の如き沈默の間には異常の決心を堅め戰備は隱密の間に運ばれたのであつた。併し當時は今日の如き全歐の大亂が突發すべしとは何人も豫期しなかつたのである。

私はこの夏期中に再び歐洲各地を視察する目的で、七月九日伯林を出發し、白耳義に入り、舊知たる山中代理公使の案內で、白國の狀勢より、愈々歐洲に開戰あらば、白耳義はアントワープ市に籠城する考へであることを聞き、同市、リエージユ、ブラツセル等の各地を見物した。されば今回の戰場は前

日踏査した處だけに、戰報の傳はると共に一層の與味を感じた。

十二日、白耳義より佛蘭西に行つた。この月十四日は佛國革命の紀念日で、大觀兵式が行はれ、市民は市内を雜踏して電車の進行を停止するなど、恰も京都の祇園祭の如くお祭騷に夢中になつてゐた。元來佛人は獨逸に對しては敵愾心最も強く、かゝる場合には種々なる示威運動も行はれるので、この日示威運動が盛であつたのは、必らずしも墺國皇儲問題に關係があつたのでなく、從つて戰爭を豫期する樣な風は少しもなかつた。

二十一日巴里を去つて倫敦に行つた。こゝでも亦戰爭が起らうなど〻注意する者なく、世人は總て愛蘭問題や婦人參政權問題に熱中し、愛蘭問題では國民と軍隊との間に砲火を交へて互に死傷あり、婦人は又大道に盛に女權の擴張を呼號し、甚しきは建物を破壞し、繪畫其他の美術品を破毀し、亂暴狼藉を極めたので、博物館其他公衆の觀覽する場所は多く警戒して閉鎖中であつたから、見物人の迷惑は少くなかつた。

私は二十七日に英國の議會を傍聽した。愛蘭問題は益〻紛糾し來つた折柄、この日恰も同問題に付き大論戰があるといふので出かけたのであつたが、人心鼎沸、傍聽席は滿員の盛況であつた。國際關係に就ても議員と首相との間に質問應答あり。外相よりは英獨佛伊の四國會議を倫敦に開き、墺塞關係を調停するの案を提出した旨の報告あり、議場稍色めいて來たけれど、未だ全歐の大亂が起らうとは何人も思つてゐなかつた。

此頃英國の金利は著しく騰り又獨逸が英國の提案を拒絕した回答が二十八日頃に來たが、世人は未だ大戰を想ふ者は少なかつた。大戰を豫想した者は四分位で、六分は之に反對し、所在に之を賭した者が多かつた。たゞ多少注目を惹いたのは墺匈國領事が倫敦の新聞に廣告し、豫備軍人は至急に歸國すべく、旅費に不足する者には貸與すべしといふたとである。

英人のみではなく、英國在留の日本人も亦戰爭が起るとは思はなかつた。列國間の平和は容易に破るゝものではなく、假令又破るとしても一二週間の餘裕はある、突發すべきものでないと信じてゐたが、獨逸に在留してゐた者は、今回の獨逸の態度は平生とは少しく違ふ、或は全歐の大戰が起りはせぬかと危ぶんだのである。私は若し開戰にでもなれば再び入ることは出來ぬと思つたので、友人等の諫告を排し、七月三十一日午後八時倫敦を發つて伯林へ向つた。

汽車は獨逸語を話す人で滿員であつた。何故こんなに獨逸人が歸るのか其時私には解せられなかつた。その夜十一時にハルウキッチに著、直に和蘭通ひの連絡船に乘り込んだ。船の中は非常な人で、私は一等切符を有つてゐたがケビンに入ることが出來ず、甲板にアンペラを敷き外套を被りゴロ寢しなければならなかつた。時は眞夏であつたが、北海の夜風身に泌みて寒く、終夜まどろむことさへも出來なかつた。一等客の三分一は皆かういふ有樣であつた。

倫敦では靜であつたがハルウキッチに著いて戰備の著々と進行せるを目擊した。夜間でよくは分らなかつたが、二三十隻位の軍艦は船舶の出入する毎に十字形の探海燈を照射し、晝を欺く光は物凄き有樣であつた。我々の船も見ゆる限り照されたが、三十一日午前五時ホーク、オブ、ホルランドといふ和蘭の港に著いた。首府に行かなければ事情も分らぬと思ひ、ヘーグに行つたが何の異狀もなかつたので、電車で約二十分間のスヴエニンゲンといふ有名な海水浴場に行つた。平生は開放せる場所であるが、今回は銃劍の兵士が嚴重に警戒して入れない、變だと思ひ不安を感じたので見物もそこそこにしてヘーグに引返すと、號外が出て白耳義が一部動員令を下したことを報じ、尋で又和蘭も動員令を發し、明一日より實行するとあつた。形勢は愈〻重大となつたのみならす、獨逸行列車は今三十一日夜九時發を以て最終とし、之に乘り後るれば入獨することが出來ぬこと

が分つたので、急いでアムステルダムに行き一寸見物して其夜獨逸行列車に乘り込んだ。これが最後列車だといふので列車は非常なる混雜で、滿員以上の滿員で、一等室も得られねば寢臺も得られぬ。荷物などは廊下に山の如く積み重ね、辛ふじて其上に座るといふ有樣で、甚だしきは便所の中に立てるものあり、婦人連は便所に行くことが出來ぬので、目も當てられぬ慘狀であつた。その夜の二時半に國境のオルテンツアールに著いた。和蘭の汽車は獨領に入れぬといふので、乘客と荷物とは總て此所で卸され稅關の檢査を濟ませて獨逸の停車場に行くのであるが、その間三丁ばかりは徒歩せねばならぬ。私は多くの荷物を携へてゐなかつたので、帶で之を縛り、前後に肩に擔ふたのであるが、婦人連にはそれが出來ず、赤帽は總て召集されて一人もゐない、汽車は間もなく發車するといふので、叫喚の聲闇を通して響き、さながらに修羅の巷を現はした。汽車は午前四時に發したが、「プラットフォーム」には荷物が山の如くに積まれてある、積込む暇もないのでその儘に捨て去つたのである。

その後は食ふことも飲むことも出來ず、いはゞ汽車に積込まれたまゝで八月一日午前十一時に伯林に著いた。此間汽車といふ汽車は悉く伯林に向ひ、伯林から來るものは一輛もない、偶〻來るものは軍用品と思はれるものを滿載せる貨物列車のみである。

伯林停車場は例へやうもない混雜であつたが、私の著くと前後して反對のプラットフォームに、日本人らしい夫婦連が下り、物慣れぬ風でキヨロ〳〵私を見てゐたが、やがて「貴下は日本人ではありませんか」といふ。「さうです」と云へば、「さうでしたか、あゝ助かつた」と夫婦は大喜び。私は呆氣にとられどうしたのですか」と仔細を訊くと、「私達は只今露國から來ましたのですが、さて〳〵歐洲といふ所は不便な所で、買はうと思つても飲むものも喰ふものもない。最初モスコーを發つ時には、伯林までの通し切符を有つてゐたが、ワルシヤウで切符を見せ

ろといふので示したが、取上げたきりで返して呉れぬ、手眞似で返して呉れといつても通じない、その中に發車時間が來たので、多分次の驛に行つたら返して呉れるだらうと思つて乘換へたが、次の驛では別の車掌が來て何か手眞似をする、切符を見せろといふらしいから、切符はもう前の驛で渡したと手眞似しても、先方にはそれが少しも通せぬ、而して切符がないならば新しく買へと云ふ、仕方がないから又二人分の切符と寢臺券とを買つた。而して途中飲食を買はうとすれば他の人が買つて了ふ、喰はず飲まずで此所まで來ました。これ程不親切な人間が文明人だとは聞えませぬ』と泣き出さん許りの有樣である。私は親切に『平生ならこんなことはないのだが今は御承知の通り大戰爭を始め掛けてゐるから、かういふ始末なのだ』と云ふたら、二人は驚いて『へー、何國と何國とが戰ふのですか』といふ。獨逸と露西亞とだといつたので、『ハア、成程之れで悉皆讀めました、獨逸と露西亞とが戰爭を遣るのですか、驛々で兵士を見送りに來て泣いてゐる、弱い奴だと思ひましたが、道理で……』といふ有樣、彼等はまだ露獨の開戰を知らなかつたのである。これまで當惑した模樣を手振り身振りで面白く話した。私は氣の毒やら可笑しいやらでチツト見聞きしてゐたが、其姓名を聞くと和田某といふたが、此男こそ日本喜劇界の驍將曾我の家五郎君であつたので、喜劇以上の喜劇を演じたのを想ひ、思はず哄笑したのである。そこで私は二人を旅館に送り屆け、私も下宿に入つた。

市中には細君が下女を連れバスケツトを提げて買物する者が續々として來る。罐詰、麵麭粉、砂糖、馬鈴薯、鹽等の貯藏に耐ふる食料品はどし／＼買入れ數ケ月間の準備に忙殺されてゐる。私の下宿の主婦などもやつと二ケ月分しか買へなかつたと愚痴てゐた。佛國との戰爭に巴里の籠城あり、伯林市民は開戰と共に直に籠城といふことを聯想し、之が準備をしたのである。從つて食料品は一日毎に暴騰し、平

時の價に二倍三倍し、甚だしきは四倍したものもあり、氣早の商人中には買占を行ひ店を閉ぢて賣止めし、より以上の利益を待つてゐたものもある。警視廳はこの有様を見、大に驚き直に布告を發し、食料品の値段を一定し、之に反く者は營業を停止し、嚴罰に處することを令し、且つ最も暴利を貪つた商人二三人を捕へて處罰し、同時に又獨逸の軍備は充實してゐる、敵をして伯林に襲來させることは斷じてないから、人民は安心して其業を勵めといふ布告を出したので、市民は皆安堵し、食料品を買占めもせねば、値段も規定の如くに下つた。

露國は七月三十日一部に動員を下令し、翌三十一日朝全國の動員を命じ、獨逸も佛蘭西も八月一日に全國に動員し、獨露兩國は八月一日互に宣戰を布告した。形勢がかく切迫したので、伯林の人民は極度に昂奮し、一日の夕、市民は潮の如く宮城前に押し寄せ、盛んに萬歲を唱へた。此時皇帝は自らバルコニーに出でられ、自分は平和維持の爲に露帝と共に力を盡したのである。然るに露帝は自分の意の如くならぬ、場合によりては平和の爲に劍を把つて起たねばならぬことがあるかも知らぬ、今後も尙平和の爲に盡しはするが、萬一劍を把つて起たねばならぬことがありとすれば、その罪は露國にある、汝等は世界文明のため祖國の爲に擧國一致して盡せと演說し且つ民衆と共に神に幸福を祈られた。翌日の新聞には獨帝が露帝と交涉した往復の文書を發表し、之に說明を加へて、今回の事を起したのは露國である、獨逸は止むを得ざるに出たのであることを明にした是に於て獨逸人は露國皇帝こそ平和を破壞する者なれ、獨帝は洵に氣の毒であると信じ、對露敵愾心は特に猛烈を加へ、今迄戰爭に反對して居た社會主義者の如き遂に贊成するに至つた。これは獨帝の巧なる人心收攬術の一端を現はしたもので、機會を捉へて巧に之を利用したのである。

之が爲に當時の人民はウンテル、デン、リンデン。ポツツダム、ブラッツ其他人出の多き廣場に集まり

國歌を歌ひ萬歳を唱へ、盛大な示威運動を行ひ、軍人が通行すると忽ち之を迎へて萬歳々々を浴せかける、刻々に發行される新聞の號外は自働車で配布せられ、時局の進行が刻々に分るので、人心は愈々益々昂奮するのみであつた。

動員は五日に分ちて下令し、豫後備を召集した。これより先き汽車は豫め軍團の所在地に集中し、動員令と共に直に輸送を開始し、輸送列車は國境に送り放しとし、五日間に所令の國境に送つた。兵數は不明であるが、當時彼地で傳ふる所によると四百萬人と稱し或は六百萬人とも云ふてゐた。二三日間を隔てゝ國民軍を召集した。年齢は十七歳より四十五歳までの男子で、新聞記事によると總數千二百萬人とも云ひ或は八百萬人とも云ふてゐた、獨逸の人口は六千五百萬人で、內男子は女子よりも少いのであるから、三千一二百萬人である。故にその三分の一が召集されたのであるから、市中は殆ど婦人のみで、會々男子に逢ふことがあつても、それは老人か子供若い者は病氣で出征に堪へぬものゝみであつた。之が爲に第一に不便を感じたものは電車、自働車、馬車、汽車等で、汽車と自働車とは軍用に供せられ、其他は機關はあるが、之を運轉すべき運轉手、車掌が皆召集されて、一人もゐない。工場も機械はあるが、同じく之を動かす人がないから閉場する、假りに製造しても買手がないから勢ひ閉場するの外ない工場が閉場するから爰に使用された女工は解放される。婦人の失職者が著しく增加する。商店も閉ぢたものが多い、殊に贅澤品を賣れるものは全く休業同樣であつた。旅館、料理店もボーイ給仕人がなくなり、病院、研究所、大學等は軍籍にあるには勿論、軍籍にあらぬ者も志願して出征する故殆ど閉鎖同樣である、又閉鎖せぬものも戰場に使用する物を造るに汲々とし、眞面目なる學問的研究の方面には少しも活動しない。市立の病院は負傷者の收容に使用せられ、從來の患者は大抵之を私立病院に移し、且つ醫師も野戰病院に送られて不足したので、外人の醫

師にして志願する者は之を雇入るゝといふ有樣であつた。

かういふ風に人心が一時非常に動搖し、恐慌の狀態を呈せんとしたのであるが、機敏なる獨逸人は直に之が應急の途を講じ、男子の缺乏せる所には婦人を以て補ふことゝした。例へば電車の車掌、汽車の切符切り、ボーイ、給仕人等には總て婦人を以て補充した。

小麥其他の畑作物は開戰當時收穫季に達してゐたが農夫が召集せられて收穫することが、出來ぬので、文部省は夏期休暇中なりし小學生徒を召集し、先生の指揮の下に、一週間中に之を收穫させた。これによりて半ケ年を支ふるだけの食料を得たと新聞は書いてゐた。

開戰と共に銀行は金貨の支拂を停止し、兌換券は不換紙幣となつた。最初は紙幣を受取るを拒むものもあつたが、かくと見たる政府は直に布告を出し、紙幣の授受を拒む者は其營業を停止し、罰金を課することにしたので、平生通りに通用するに至つた。

かく多數の男子が出征したので、留守家族の補助に就ても亦大に意を用ひられた。最良の條件を以てした會社は、出征者に對しては假令出勤せなくとも、平生通りの手當を其家族に給與し、之に次げるものは電鐵會社の如きもので、夫たる車掌其他の從事員が出征した場合には、夫の代りに妻又は其家族を使用し、新に募つた普通の婦人には男子の半額を給與したるに拘らず、此等の人々の爲には特に全額の手當を給與した。婦人はかうして職業を得ても子供があるものは處置に困るので、乳兒は育兒院にて之を引受け、少し大きなものは近隣にて之を養ふたのである。卽ち時間々々に近隣の富家へ食ひに行くのである。以上は私の補助で、此他に政府の補助もあり、以て後顧の憂ひなからしめたのである

軍隊は何れも元氣よく出發した。後備の老人中には憂色あるものもあつたが、大體に於て遊山にでも行く樣に勇ましく出發した。平生婦人と手を組み接吻

などするのを見、弱い軍人だと思ふてゐたが、出發する時の軍人とその夫人の態度は意外に立派なものであつた。私は毎日停車場の上を通つて軍人の出發する模樣を實見したが、士官は細君と自働車で停車場に驅けつけるもあり、列を組んで來る者は片手に花束を提げ、片手は婦人と手を組合せてゐる。銃はと見ると、その婦人がかついで居る。こんなことは到底日本で見られぬことであり、又許さるべきことでないが、最後の瞬間までも樂むといふのが、獨逸人の主義で、上官もこの主義の發揮を默認してゐたのである。その後よりは兵士を乘せた馬車がゾロゾロ行く、何れも辻馬車で賃錢を拂ふべきであるが、馬車は旗を立てた儘で驅けて來る。(伯林の馬車は客がない時は旗を立てゝ、客の來るを待つが、乘客ある場合には旗を横にしてゐる。旗を立てゝゐるのは客ありながら客なき風を示し賃錢を受けぬのである。)御者も亦兵士の出征に感激し義俠心を發揮せるのである。

停車場の別離には兵士もその妻子も涙一滴だも流さぬ、而して妻は『御機嫌よう、確りと働いて下さい間に合はなければ、妾等も後から參ります』と夫を激勵してゐた。

戰爭開始以來軍隊内に於て酒類を飲む事は堅く禁じられて居た。

英國が獨逸に宣戰を布告したのは八月四日である。獨逸の當局者は英國の戰爭參加を豫算に入れてはゐたであらうが、獨逸人はかく早く英人が戰爭に參加すべしとは豫期しなかつた樣である。當時の英國大使の態度は頗る立派なもので、『獨逸人は惡口してゐたが、外國人は皆一樣に感服した。四日の夕方、四時頃であつたと思ふ。獨逸の首相ベートマン、ホルウエーヒ氏は議會に於て、獨逸軍はその自衞上白耳義の中立を侵したかも知れぬ、併し之に對しては戰爭終局の後に責任を以て處置する積りである』と演說した。この演說は即刻號外で發表された。之を見た英大使は即刻議會に驅けつけ首相に面會して抗議を

提出し、獨逸軍の卽時撤退せんことを要求した。併し首相は之を容れなかつたので、大使は直ちに車を外務省に飛ばし、宣戰の布告を與ふると共に、通行劵を要求した。この事は直ちに號外で發表され、同時に一般の獨逸人は今までの元氣に引換へ、意氣銷沈、これで四面皆敵となつたといふ嘆聲を發してゐた。

當時の獨逸新聞は之を評して「英國は口は中立を唱ふるも、實際上我國に對して敵意を挿めるものである。表面は中立を裝ひながら、事實は敵意を挿む如き曖昧なる態度であるよりも、寧ろ正面より敵國として劍をかざして吳れるのが安全である」といつてゐた。要するにこれは負惜みで、英國の敵對は獨逸人に大打擊を與へたものである。

外人に對する獨逸人の態度を見るに、敵愾心の最も猛烈を極めたのは露西亞人に對してゞあつた。開戰當時、「內地には多數の外國人がある、軍事探偵も多いであらう、充分に警戒し、怪しと思ふた者は之を捕へよ」と警告したので、昂奮した獨逸人は外人に注目し、而して最も多く且つ烈しくその槍玉に上げられたものは露國人であつた。露西亞人自身にも不穩當のことあり、或は獨逸人の感情を害する樣な行爲もあつたのであるが、併し局外者より見て、當時の獨逸人は文明國人として最も恥づべきことが多かつた。例へば當時の新聞には每日二三人の露西亞人が殺されたことを報じてゐた。私は殺された現場を目擊したことはないが、袋叩きにされた者を每日二三人づゝは見た。多少露西亞式の容貌の人が市中を散歩すると、市民はその後をつけ、或は之を警察に連れて行く、或カフエーでは露人たる音樂長が露國の國歌を奏し出すと、之を聞ける獨逸人は一齊に立ち上り、この露人を袋叩きにし、手當り次第に器物を破壞し、散々に亂暴した。この店は爲にその夜から閉鎖して了つた。

到る所のカフエーでは二三時間おき位に獨逸の國歌を歌ひ。愛國心を鼓舞してゐる。外人中にはその國

歌たるを知らぬので起立せぬものがある。起立せぬ者は内外人の區別なく之を撲り、逃げんとする者あれば露探とか軍事探偵だとか云つて追かける。この聲を聞くと街上の獨逸人が外から攻擊する、内外から挾擊されて半死の目にあはされる。市街の通行とカフエーに行くのとは外人に最も危險であつた。

多數の露人中には波蘭人が殊に多かつた。彼等は在留すれば獨逸人に虐待されるが、歸つても露人に虐待されるといふので多く在留してゐた。開戰當時伯林には十萬の露人がゐたと云ふ事であつたが、彼等は歸るべき旅費もなく又汽車もないので、在留したが、其後巡査が來て拘引して行つた。捕虜となつたのか保護を受けてゐるのか分らぬけれども、區劃せられたコロニーに收容されてゐるらしい。伯林に下宿してゐる露人中には、下宿を斷られて困つた者もあつたから、收容されたのは却つて好都合であつたかも知れぬ。

佛人に對しても同樣であつたが、佛人は早く逃げたので、被害者は少なかつたと思はれる

八月四日英國が獨逸に宣戰を布告して以來、獨逸人の對英人態度は俄然として一變した。英語を語る人は獨人の注目を惹き、中には露人と同樣の暴擧を受けたものもあり、又エングリッシユ(英の)といふ文字は著しく市民より嫌惡され、エングリッシユ、カフエー。エングリッシユ、レストラン。エングリッシユ、モーデー(英國流行型)其他總て『英の』の文字を冠せるものは悉く之を消し、會々消さぬものあれば市民は之を襲擊し、その硝子を破り快哉を叫んでゐた。英國大使館亦伯林市民に襲擊され、窓硝子其他の器物を破壞された。

其頃の新聞を見ると米國大使は獨逸外務省に抗議を提出し、獨逸國で今英語を語る外人の大部分は米人である、英人は大部分既に引げたるに、米人がその國語を用ふる爲英人なりとして撲られるのは甚だ困ると、新聞も大に驚き、米人に對して注意することを促した同時に又英米人を區別する爲め、米人は特

に胸部に星線の旗を著けさせたが、英人も亦之に倣ふたので、結局區別が出來ないので、七八日頃には大使も止むを得ず、外務省に談判し、米人の爲に特別列車を仕立つることを要求し、大使館より切符を發賣し、資金なき者には貸與し、米人立退きを計り、毎日特別列車で出發させた。

かうして露佛英米人の始末はついた、其他の歐洲人もあつたが、殘つた主要なものは日本人である。今次の大戰以來獨逸人の日本に對する感情は極めて良く、二日の夜發行された號外には『日本は露國に對し宣戰を布告した』とあり、一獨逸人がウンテル、デン、リンデンの「ベンチ」の上に立つて之を讀上げると、群集はブラボー、ヤパン（偉い日本人）と絶叫し、群集中の日本人を胴上げした。私もその附近に居つたが逼られては大變と思ひ、カフェー店に逃げ込んだが、一部の群集は私の後を追ふて來り、盛に日本萬歳を唱へ、我同盟國人と呼び、「シャンペン」を拔き「ビール」を酌み、我々の幸福を祝して呉れた。中にはこの號外の眞僞を質す者もあつたが、私は曖昧に返事し、只知らぬとのみを云つてゐた。一部の群集は夫より大使館に、一部分は日本倶樂部に押寄せ萬歳を唱へた。新聞記者は大使に面會を求め、號外の説明を聞かんとしたが、大使館では公報が來ぬからと歸さうとした樣子だが、なか〳〵歸らぬ、その中に夜が更けると共に群集は次第に減少し解散したが、爾來日本を同盟國と思ひ、少くとも將來の味方と信じ、日本人に對しては見識らぬ者にも挨拶し、汝の國は何日頃露軍の背後を衝くかと質問する者もあつた。或日の夕、夕飯を喰ひに行くと同じ値段で平生よりも料理の數が多い、不審に思つてゐたが、給仕が『貴下は日本人だから特別に御馳走するのです』といふを聞き、自分ながらも驚いた。此時周圍の強國は皆敵となつたので、眞に日本に信頼せんとする念が盛であつたので、あの剛腹にして自信力の強き獨逸人、黄禍などを主唱し、日本人など殆ど眼中に置かなかつた獨逸人が我々に向ひ、貴下等

は吾人を救助するかといふ様な弱音を吹いたのを見ても、當時獨逸人の對日感情の如何に良好であつたかが察せられる。

最初は日本人に對し好感情を表してゐたが、英國が宣戰を布告して以來稍一變せんとした。新聞は日本の態度に就き盛に論評する、中には日本は日英同盟の條項により英國を援助するであらうといふもあれば、或は又日本は日露戰爭に際し一文も償金を取らなかつたから、此際露國より償金を要求するであらう、而して露國若し之に應じなければ、日本は之を口實として滿洲の兵を西伯利亞方面に向け、露軍の背後を衝くであらうといふもあつた。が此時以來日本人に對する獨逸人の注目は漸く密になり、日本倶樂部、或は松下旅館の前には角袖が立つて日本人の擧動を注目する様になつたらしい。現に日本倶樂部が刷物を在留同胞の間に配布すると、之れが翻譯されて翌日の新聞に掲載されるといふ有様であつた。本國とは音信不通で、大使館でも本國政府の意向が分らず、居留民は無論推定もつかぬので、何となく不安の思をなし、一日も早く中立國を逃げたいと感ずるやうになつたが、動員の爲に汽車不通となり、出るにも出られぬので、我々は前記の二ケ所に集つて空しく小田原評議を凝らしてゐた。

中にも最も困つたことは金の問題である。本國よりの手紙は七月十四五日頃の分を最後とし、爲替は同十一二日頃の分しか著かないので、總ての人が第一に金の缺乏を訴へて來た。或は西伯利亞經由で歸朝せんとし、既に切符を買ながらも交通杜絶し、且つ持てる紙幣は用を爲さぬといふので困れる者もある。何人も斯る大戰の起るを豫期しなかつたので、其所有金は多きも一二ケ月分、少きは數日乃至十數日を支ふるに過ぎなかつた。加ふるに物價は平生の倍額にも騰貴したので、非常に困つて來た。大使館に話したが、無論さう多額の金を遊ばせて置く筈もないので、直に融通することも出來ぬ。文部省の留學生に對する分だけは内地に向つて特別の便宜を計

ふ樣な運をされたが、一般人全部に對して滯在費を貸すことは出來ぬので、大使館よりは金のない者は一日も早く中立國に去れ、その旅費は之を貸與するからと通知した、中には多くもなき金の中より電報を打つて送金を本國に依頼した者もあつたが、返事も來ねは金も著かぬ、電報が著いたか否やすらも分らず、空しく電報料を損するのみであつたから、その後は之を試みる者もなくなつた。

この頃は日本との交通は全く絶え、無論日本の事情も分らず、又日本に通信することも出來ず、電報手紙は一切外國語を用ふることを禁ぜられ外國人間の電話すらも外國語を使用することが出來なかつた。

私が食事を注文せんとし、「親子丼」のオヤコと云ふと、電話が斷れて了ふ、何回繰返しても同樣であるから、餘りの腹立しさに交換手に質すと、外國語は通用せぬといふ。外國語だと云ふても固有名詞は致し方がないではないかと交渉したが頑として聴なかつた。

十日頃であつたと思ふ。フォッシッシエー、ツァイツングといふ新聞が日獨の關係を論じ、最後に在留日本人に對しては、日本が獨逸に敵對行爲を始むるまでは、他の中立國人と同樣に好遇せよと説いた。前後の關係より想像すると、若し日本が敵對行爲を開始すれば、日本人を遇すること露西亞其他の交戰國人民と同樣に撲れといふ意を含めりと解せられるし、又或日本人は常に寫眞を撮したといふので、出發三十分前に拘留され、七時間の取調を受け其間には留守宅の家宅搜索を受けたるあり、又或日本人は會社に行く途中に拘引された、よく其事情を調べると會社の他の同僚と數日前に喧嘩したことあり、對手は其餘憤を漏らす爲に、彼は軍事探偵なりと當局に密告した結果であるらしい。尤も二人とも疑はるべき人でなかつたから、其後直に放免せられたけれども、かく新聞の論調、人民の態度が險惡に傾いて來たので、日本人は益々不安の念に驅られ、一日も早く逃げ出さねばならぬといふことになり、百方逃

路を問合せ講究した。幸にして大使館の盡力によりザルツベルゲンを經て和蘭に入り、フリツシンゲンより倫敦に渡る途は安全であることが分つたので、大使館は獨逸外務省に交渉して居留民の身許證明書を受取り、伯林に集りし邦人約四百名は十日前後より五人十人づゝ和蘭國境に向つた。

伯林在住者は成るべく最後まで滯在せんと云ふ人が多かつたが、さて殘留者の安全を計る爲には此際獨逸人の意向を緩和せしめねばならぬ。之が爲に我々は第一に新聞紙上に在留日本人の意向を發表した。それは獨逸は日本の師である、學問、技術其他有ゆる文明の恩人である。我々日本人は常に獨逸に對して感謝してゐる。又日獨兩國は利害の衝突すべきものが甚だ少い、日本人は決して獨逸に敵意を插むものでない、不幸にして日英同盟の條章あり、場合によりては或は獨逸に對して起つことがあるかも知れぬ、かゝる場合がありとするも、それは日本人の眞意でない、英國は紙上の友人である、獨逸は心よりの友人である、故に英國を助くることあるも、日本人は獨逸人に對して同情を寄するものであるといふことを發表した。これは當時眞に窮餘に書かれたものであるが、獨逸人は大に喜び、日本人は獨逸に同情すると思ふたらしい。

併しこれだけでは未だ不安に思はれたので、日本人の好意を示したいといふので、十二日頃獨逸赤十字社に對する寄附金を募つた。立所に千馬克集り、翌日も亦約千馬克集つたのでロカール、アンツアイケル新聞を經て之を赤十字に寄附した。翌日の新聞は『獨逸の窮乏に對する日本の助力』と題して大文字を以て吾々の好意を發表した。之が爲に一時險惡になつた獨人の對日惡感は除かれ、再び良好になつたので、我々は此機を逸せず逃げ出すことにした。

仕事其他の關係上最後まで止まらんとした者も多くあつたが、十四日午後二時頃大使館より在留日本人に即時獨逸を引上げよ、分秒も早く中立國に逃げよといふ秘密通知が達した。後で聞けば十四日午前

に居留民全部を卽時引上げさせよといふ秘密電報が來たらしい。平生ならば十時間で電報は著くべきであつたが、これは七日目に著いたとのことであつた。居留民は大使館からこの突然の通知を受け非常に狼狽し、中には其日の四時の汽車で出發した者もあり、或は荷造りして大使館に托したるもあり、下宿屋に其儘にして逃げ出した者もあり、兎も角大多數は十四日の午後四時、十一時、十五日の午前十一時、午後四時及び十一時の汽車で出發した。私は最後の十五日の午後十一時に出發した。

始め大使館よりこの報を受けると同時に一同相談し、出發の時までは、出發の事を一切獨逸人に語らぬことを約束し、飽までも祕密の漏るゝことを防いだ、中には獨逸人を妻としてゐた者もあるが、その妻にさへもこの事を秘密にした。愈々出發するとなると、獨逸人は日本人が急に動き出した、何故動くのかを怪しむものも出來たし、又和蘭行の汽車中には日本人が殆んど全部を占むる室もあつたので、汽車の役人中には日本人は何故急に出發するか、一週間後には軍隊の輸送も終り、特別列車も運轉される、それを待つたら宜いではないかと好意で忠告するもあり、或氣早の連中はこれ恐らく西伯利亞に送兵する爲動員されたのであらうなどといふもあつた。我我は途中此等の質問に對し返事が一致せぬと困ることがあるから、出發前豫め此事に就ても申合をしたのである。而して其第一理由は在獨日本人は主として留學生で、學問の研究を目的とする者であるが、開戰以來大學も研究所も殆ど閉鎖し、目的を達することが出來なくなつたこと、第二本國との交通々信が全然杜絶したので、故國の人々は我々の安危を憂ふる者多きこと、第三に金がなくなつても之を得る方法がない、勢ひ中立國に去りて送金の便を受けねばならぬといふので、尙早說に對しては米國人さへも既に發つではないかと稱し、以て獨人の意を緩ふするに力めた。尤も英國に行くと云へば反感を買ふを免れぬから、我々は總て兎も角蘭國に赴き、事情

によりては又跨獨するといつてゐた。汽車の良好なるものは軍隊の輸送に供用し、我々の乘つたのは粗惡であつた。殊に長距離の運轉でありながら、便所もなければ飲食の設備もない、且つ出發を急いだので、携帶品は着替へと食料としての麵麭のみで、書籍其他一切の書類等多少なりとも嫌疑を受くる虞あるものは携へなかつた。萬一何等かの嫌疑を受けて、一日でも留置さるゝことあらば、次の瞬間には捕獲さるゝ虞なしとせなかつたからである。平生は七時間で國境に着する汽車が、此時は三十二時間を費した。この間無論眠ることは出來ぬ、坐ることも出來ないで、立ち通した者もある。婦人の如きは最も苦痛を感じたのであつた。切符は何地まで通ずるか分らぬといふので、次の乘換驛までの分を發賣し、國境までの通し切符を賣らない。故に乘換る每に一々切符を買はされる。殊に車中には我陸海軍人が二三十人も乘つてゐて、乘換に時間を要する每に同か異變でも起りはせぬかと心配したのであるが、幸にして十七日午前一時半にザルツベルゲンに着いた。此所から和蘭國境に行く連絡車がなかつたので、非常に心配しながら四時間を野宿に過し、五時半漸く發車し、八時に國境のベントハイムに着いた。急ぎ荷物の取調を受け、プラットフォームを越へて蘭領のオルデンツアールに入つた。國境の稅關では白人及び支那人の荷物は悉く明けて祕密書類までも調べたが、日本人に對しては只明けただけで、或は明けずに通過した者もある。斯して我々は兎も角も好遇を受けて獨逸の領內を去つた。

和蘭領土に入り始めて大に安心し、祝杯を舉げた者もある。併し汽車の連絡が惡く午後四時迄待合さねばならなかつた。待つてゐる間に、十六日午前十一時我々のあとで伯林を發つた人々十五六人が十一時頃に安着したので、互に無事を祝し、午餐を取つてゐると、新聞號外が日本が獨逸に對して最後通牒を發したことを報じた。我々も驚いたが、今はプラットフォーム一つを隔つて安全なので、一同萬歲を唱へ

幸福を喜んだ。

かくて其夜の十二時ヘーグに著き、一泊して十八日フリシングンより英國に渡つた。ドウヴァー海峽には英國の精鋭を集めた艦隊が堅く封鎖してゐた。船は此封鎖線の間を過ぎ、我等はその夕倫敦の客となつた。前日に來た當時喧しかつた愛蘭問題は火の消えた如く、婦人運動も亦閉息し、全然國を擧げて一致、敵國に當つてゐた。併し英人は獨逸人の極度まで昂奮したるに反し、極めて冷靜で、殆ど戰時の狀態とは思はれなかつた。特に最も感心したのは獨逸が味方は飽まで優遇するも、敵方を虐待するに對し、英人は獨逸人を虐待もせねば、味方の日本人に對しても日本人とも云はず、一向に平氣なる大量に感心したことである。

倫敦には各國より集り來れる邦人千人近くもあつた併し西伯利亞線への通路は閉ちられ、印度洋通ひの船室も一二ヶ月前より豫約せる人の手で滿員となり一二等は勿論、三等すらもなかつた。米國通ひの船も一二等は十月末迄滿員となり、平生三百圓位の一等が時價千七百圓に上り、而もそれは相場のみで賣るべき切符はないのである。

米國通ひの三等船室は少しあつた樣であるが、米國では日本人の三等上陸は難いだらうと云ふので、三等切符は買ふ者がない。私は信ずる所あり、友人二人と共に三等切符を買ひ、リヴァープルより英船オリンピック號に乘組んだ。

大西洋上に獨艦が遊弋するといふので、一日出帆を延ばし二十四日解纜した。出發すると直に私は事務長に談判し一二等切符を求めたが、ないといふ、金を與へて更に周旋せしめたので、漸く二等室を融通して呉れた。

乘船すると客は一個づゝの救命具を與へられ、一同は頗る心細さを感じた。この船は四萬六千噸二十五節の大船で獨逸のファーテルランド號(今は休航)に次げるものであるが、政府は之を囮として獨艦を引きつけ、一擧に敵船を殲滅せんとするので、英艦隊

が背後より護衛してゐるなど噂せられ、氣味惡き航海であつた、

夕方になると、日沒前より燈火を消し、窓硝子には墨を塗り、更に黑布にし包み、眞黑になつて全速力を出した。かくて二十九日紐育に著、所々見物の後、獨艦ニユルンベルグ號が桑港附近に出沒すると聞き、特にシヤトルより丹波丸に乘り、航程無事二十四日夕刻横濱に著いた。

今回の事變に在獨大使館の執つた處置は居留民一同の衷心より感謝した所である。時局の切迫するや迅速に之を通知し、必要ある者には金を貸し、パッスを與へ、居留民をして何の危害をも受けず、退去するを得せしめたのは大使館の行動宜しきを得た爲である。在留者中には捕虜となつたなど傳へられるものも、此等の多くは自ら好んで滯在せるもので、大使館は一日も早く退去するを勸め、且つ其手段方法を講じたのである、これは我々が特に大使館員に對し感謝の意を表する者である。

叢談

雨期の衛生

根津茜菅

梅雨の時に直接健康上に關係あるのは第一に濕氣冷氣及び日光の不充分なことでありますが、これが周圍の自然界に及ぼす關係から又種々衛生上に不利益な影響を蒙むります。

氣象の生理上に及ぼす影響は善く分かつてゐさうで實は今日の所まだ解釋のつかない點が多い、非常に複雜なものであります。只氣壓が低くなるときには血管系統が一時細くなり、それから過度に擴張し、暫くして再び漸次普通の太さになると云ふやうなことが分かつて居ります。又大氣の濕量が多くなれば皮膚の呼吸も妨げられることは明かであります。氣

濕も稍々高くなりかけた所を又急に低くなり、一時單衣を着たのに忽ち又袷に羽織を着ると云ふ風で、生理上の調節作用も一寸どぎまぎ致すわけであります、梅雨の頃に何となく睡氣を催す、而かも睡眠が安らかでない、とかく夢を見易いと云ふやうな狀態は、前述の血管擴張の結果血液が腹腔の大血管に流注し、又睡眠中に極度に擴張する腦の血管は、特別に頭を低くでもしなければ充分に滿たされないと云ふやうな所で說明がつきます。氣濕、濕量等の變化が著しい爲に暑いやうな氣がしたり又忽ち冷氣を覺えたりしまして、感冒にかゝり、僂痲質斯が起つて所々に疼痛を訴へる人が多くなります。それから日光を見ることが少なくなりますから精神的にも陰鬱になります。斯樣な具合で梅雨の時の氣候は直接身體に對しても不利益な點が多いのでありますが、それよりも間接に身體に及ぼす周圍の狀況が一層不良になつて參ります。

第一に衣服夜具、その他家の內のもの一切濕氣を帶びてじめ〳〵致しまして、これが既に不快なばかりでなく、此の濕氣と氣溫とは諸種の黴菌の發育繁殖に適する度合になりますので、苟も黴の種のある處には食料品でも戶棚の內でゑ赤黴、青黴種々のものが盛に繁殖致します。此等普通の黴は少々位は飲食物と共に食べましても別に大した害はありません、時として單純の下痢を來す位に過ぎませんが、黴も生物でありますから相當の榮養分を採らなければなりません、それは何から取るかと申しますと、その寄生した物から取るのでありますから、それが菓子とか餅とか云ふものであれば、それだけの榮養分は黴に奪はれ、味も不良くなります。且つ黴は既に腐敗しかけた飲食物に寄生することが多いのでありますから、餘り節儉を重んじて、勿體ないと云ふ所から斯樣なものを食べたりせぬ方が宜い、下女下男の消化器とても變りはありません、況んや小兒をやであります。但し確かに腐敗しかけてゐないもので僅かに表面だけに黴の寄生したものは、能く黴を拂つ

て燒くとか煮るとかすれば、味は不良くなつても別に害はありません、屢々黴を生ずる醬油の如きものも、その黴だけを漉し去つて煮れば差支はありません、然し初めから黴を生やさぬ用心をするに如くはないのです。それには貯藏器には黴の種の這入らぬやうにしなければなりません、第二には乾燥し得るものは出來得るだけ乾かして黴の繁殖を防ぐことであります、尙は罐詰或は壜詰、又は冷藏庫等に完全に貯藏して置ける場合の外は宵越の食物は食べぬと云ふ流儀にすれば一番間違はありません。

次は水でありますが、梅雨上りには水道の水でも淨水が困難になりまして往々幾分濁ることがありますから、注意しなければなりませんが、これは先づ例外として普通の掘井戸は實際危險になります。即ち餘程深い完全な掘拔井戸でなければ、平常は申分のない飲料水でも、梅雨が續きますと、意外に差水がして不良の水が混ずることがあり、又井戸の周圍が完全に出來て居りませぬと、外部から不潔の水が這入りますから、甚だ危險であります、若しこの中に病原菌を含むだ水が一滴混じても、それが忽ち一家一町、一村の大害を釀すの因となることが屢々ありますから、水道の水の外は縱令如何に完全な井戸の水であつても必ず一旦煮沸した上でなければ飲料に供してはなりません。

それから被服類の事に就て注意致しますことは、一言で申せば、成るべく乾いた著物を著て、濡れたもの濕つたものは、直ぐ脱ぎ更へると云ふことであります。然し普通の日本家屋内に住むでゐて梅雨の時に著物の濕けらないやうにと云ふのは一寸無理な注文でありますが、先づ梅雨前に充分乾燥した衣服類を簞笥の内に保存して置いて洗濯物が二三日乾かなくとも著換に困らぬやうに用意して置くことが必要でありませう。地質は氣溫の關係から又濕氣に對しても「フランネル」の單衣が頗る適當に思はれます、殊に婦人が直接腰を卷くにも適當なものであります。小兒及び老人は濕氣の爲に僅かに體溫を奪はれまし

ても容易に感冒にかゝり又は下痢などを起しますから、濕めつた著物は成るべく早く著換へさせなければなりません。特に小兒は足袋、靴下を濡らし、又は素足を泥にして外から歸つて來て、往々そのまゝで家の内で遊びますから、これが感冒や下痢の原因となる場合があります、それで小兒が外から歸つて參りましたならば、必ず手足を拭き乾かさせなければなりません。濡れた靴下や靴を穿いて學校に行くことは最も害がありますから、今日の日本の道路、殊に東京のやうな惡路では、雨天の時は寧ろ足駄が適當でありませう、但し輕業的の穿物ですから、屢〻小兒は轉んだり、足を挫いたり致しますから、相當に年長の兒童でなければ冒險をやらせるわけには參りません。

最後に住居の方でありますが、これ亦普通の日本家屋では梅雨の濕氣を防ぐことは出來ません、壁でも疊でも悉く濕つてじと〳〵し、掃除の屆かぬ處には黴が生えると云ふ有樣で誠に始末が惡い、戸棚の内などは容易に臭氣を發するやうになります。斯樣な室内の狀況の衞生上に宜しくないことは申すまでもないことで、その濕潤した疊の上に一日坐わつてゐて、浸潤した壁の内に、濕めつた夜具を敷いて一晩眠る。僂麻質斯や脚氣などの起るも別に不思議はないのであります。然し家屋の構造が既にこんな風に出來てゐるのですから致方もないわけですが、先づ火鉢でも入れて成るべく室内を乾燥させるやうにしなければなりません。

斯樣に日本の衣食住はその特有な梅雨期には極めて不都合なもので、常食とする米飯は忽ち腐る。婆裟婆裟した常服は、脛を沒する惡路をこね廻るには甚だ不便である。障子と疊を以て一個月以上の濕氣に對抗するは困難である、且つ此の如き室内には暖爐を裝置することも出來ない。これは單に梅雨の時に感ずる不都合な點であつて盛夏になれば皆開放して四方上下から吹通しになるから甚だ結構であるとも云へないことはないかも知れぬが、冬は確かに不都

合である、特に「ペスト」の如き惡疫が跋扈する國に於て鼠と同居しなければならぬやうな建築は何う見ても宜いとは思はれない。諸種の點から見て我國現今の衣食住にはまだ〳〵改良の餘地がある、否根本的に悉く破壞して仕舞つて新文明の道を辿つて進まなければ駄目であるまいかと思はれる位である。兎に角經濟上からも衞生上からも非常に都合の惡い生活法をしながら、少しづゝ他の文明を輸入して幾分かづゝ改良して行く位のことでは到底先進の文明國に追付いて行くことは六ケしい、どん〳〵後に殘される。つまり行詰つた文明で、土臺から新にしなければ發達の見込はない。例へば擂鉢擂木と云ふやうなものは、これは恐らく神代の發明品であらうが、今日までそのまゝ少しも發達も改良もされずに使はれて缺くべからざる道具になつて居る。刺身と云ふやうなものは、これは火で物を調理することを知らなかつた時代からの料理法でありませうが、只僅かに切り方を手際よくし、食べられもせぬ飾を添へる

位が發達の極點である。米飯を主食とする如きは果して西洋人の麪麭を主食とするに比して經濟的な便利な方法であらうか。衞生上勝さつた方法であらうか。肥料は人糞に限つたものか。塵溜に等しき疊の上に倚坐し、横臥し、同じくその上で飲食しながら衞生法などを實行することが出來るであらうか。そうかと思へば一寸雨がかゝつても斑になり、二三丁歩つても裾が切れるやうな高價な衣服に、幅が一尺長さが一丈餘もある、これまた馬鹿氣た高價な帶と稱するものを卷つけて、その競爭をして居る婦人に依て家政を保たれて行かなければならぬ國の經濟は如何なものであらう。斯樣に觀じ來れば疑問百出して殆ど底止する所を知らぬが、他は總てこれを不問に附するも我國現在の衞生狀態は實に悲しむべきものである、然しこれも國民一般に衞生思想が發達せぬ限りは如何に内務省や警察あたりから世話をやいても餘り效がない。歐米諸國の成果を見ては只羨やましく、果ては悲觀するばかりである。然し奮然努

力して國民の健康と經濟とを増進する爲に衞生の何ものたるかを知らしめ、國民擧つてその方針を誤らずに生活法を改善して行くならば、或は從來の先進國を凌駕することも不可能ではあるまいと思ふのである。

話が甚しく横道にそれましたが、梅雨期の衞生を講ずるに方つて、我國の衣食住の餘りに都合が惡いのに呆きれましたので、思はず斯樣な贅言を吐いて申譯のない次第でありますが、終に臨んで尙は一言梅雨中の精神狀態について注意致します。

魚や蛙は別として普通の陸棲動物は日光を見ないと何れも不活潑になり、雨天には元氣の惡いもので、鳥の鳴聲も高く朗かには響きません、人體も他の動物と同樣の感作を受けまして誰の顏も多少陰鬱になり、實際精神が沈鬱になり勝ちであります。特に神經質の人、平素頭痛がするとか云ふたちの人は著しく氣分が惡くなりまして、殆んど堪へられぬやうな心持になる人も少なくありません。それで斯樣な季節には前に述べました如く努めて室内を淸潔にして成るべく乾燥せしめ、屢々溫浴して皮膚を淸潔にし乾燥した衣服を著更へ、食物は總て新鮮な淡泊な物を撰び、努めて身神を爽快に保つことが必要であります。この點から濕拂ひと稱して燒酎を少しづゝ飮むものゝあるは、間違つた方法には云はれません、確かに效のあることゝ思ひますが、この爲には敢て燒酎の如き強い酒でなくとも宜い、葡萄酒又は普通の酒で澤山である、それも醉うほど飮む必要はない僅かに爽快を覺える程度に於て一二杯飮むのが適當であります。それから梅干或は靑梅を紫蘇で漬けたものを食べると霧が三尺避るなどゝ申しますが、これ亦腐敗せず、食慾を進め、且つ多少酸を胃に送るのも妙ですから食事の際に一二個食べるのも宜しいでありませう。又蒼朮を焚きますが、幾分室内を乾燥させ、昆蟲類を防ぐ效がありませう。斯樣な從來の濕氣拂の方法は何れも多少の效あるものと思はれます。

それから一つは直接に精神を鼓舞して、自分の職務職業に奮勵し、不良の氣候に打勝つと云ふ元氣が必要であります。婦人方などは時に生花、茶の湯などに鬱を忘るゝも、時節柄至極適當な精神の衛生法であります。斯様に長い間の不良の氣候に負けますと何處までも身神の具合が惡くなつて、頭が上がらなくなるものですから、自ら精神を緊張して職務に勉勵すると同時に、努めて精神を爽快に保つ工夫をしなければなりません。

育兒

恐るべき夏季の小兒病

伊藤要治

毎年入梅期から土用迄の間には抵抗力の弱い小兒は大人よりも直ぐ病氣に罹り易くなるが、別けて幼き哺乳兒は最も犯され易いものである、そしてこれら小兒の病の内で最も多く最も恐るべき病は食餌中毒症であります、食餌中毒症とはどんな病氣であるかと云ふと、一見虎列剌に似た病で、急に高熱を起し嘔吐下痢に次いで直ぐ衰弱を來し、遂に心臓痲痺によつて不幸に終ることも尠くない。小兒期と死亡數の大半を占むる恐るべき病で我等小兒科醫の最も難關とする所であります、これからは梅雨期に際し愛兒を養育せらるゝ兩親の細心注意を要する事でありますから豫防看護の大略を述べて置きたいと思ひます。豫防法としては母たるものは攝生を重じ、授乳前は必ず乳嘴を清拭して後乳を與へ牛乳や「ミルク」で養育するなれば、その殺菌消毒は勿論容器も嚴重に清洗消毒し、授乳時間を一層規則正しくする、小兒の口内を屢々清拭し指の爪を短く切り、玩具は時々熱湯で洗つて黴菌の附著を防ぎ、腹卷をさせて寢冷えに罹らざる用心することが肝要であります。

我國古來往々生母がその兒に食物を與へんとする際

まづ親が吶嚼して後小兒に與ふる習慣は絶對に廢すべく、若し亦小兒が不氣嫌であつたり、熱があつたり、乳を吐いたり下痢を起したりする時は速に手當をして置かなければなりません。

不幸にして此病に罹りたる場合の看護手當と致しましては、看護者たる兩親並にその家族者と醫者が意志疏通一致協力してからでなければなりませぬ、即ち醫士嚴密な監視の下に直ぐ饑餓療法を行ふのであります、饑餓療法とは病の輕快に赴く或る期間迄一切の食餌を絶つて、單に身體の水分脫失や喉の渴きを補ふて居る方法を云ふのであります、この饑餓療法の結果として病の輕快に赴くを待つて注意して食事を與ふるのでありますが、俄かに多量に與へますと又再び元の危險狀態になりますから是非共愛兒に饑餓を訴へらるゝ憂さを忍ばねばなりません。

以上食餌に對しての注意でありますから、これと同時に一方虚脫心臟麻痺等の危險がありますから、これを防ぐ爲めに强心劑の注射や食鹽水注射をやらなければなりません、食鹽水注射は心臟麻痺を豫防する上に效あるばかりでなく血量を增し衰弱を防ぎ喉の渴きを止める上にも效能があります、未だ幼き小兒に對してこの樣な注射を行ふは聊か慘酷のやうであるけれども、現今この病の手當に於て他に適當な方法はなく若し躊躇つて時期遲れますときは終に救ふ事の出來ない樣なことになるのも往々ありますから若し斯る場合主治醫がこれら注射をなさんとするときは直に許諾を與へて以て萬全なる看護に出でなければなりません。

徒らに愛に溺れて眼前一時の苦痛に忍びず、又饑餓療法の如き衰弱の上に衰弱を重ねんとの單純な考へから竊に食物を與へなどし益々危險に赴かしめ遂に「若ければ道行知らじ賂はせんしたへの使負ひて通らせ」（憶良）の歎きに沈む樣な事になりますときは患兒の不幸は元より我等の遺憾に思ふ所であります一葉紙片元より云ひ盡す事難きもこれによりて幾分兩親の心得ともならば私の滿足とする所であります

家庭衛生

蚤退治

蚤と云ふのは一種活潑な翅の無い昆蟲でありまして諸種の動物に寄生し、人間にも寄りつき、皮膚を螫して血を吸ひ、その痕が痒い所から、もとより歡迎はされないが蝨や虱ほどには厭がられもせず、往々滑稽の材料になつてゐたものであります。所が近頃になつて「ペスト」と云ふ恐るべき傳染病が鼠と關係がある、否元來は鼠族の病氣である、それが人間にも傳染して大慘害を來すのであると云ふことが分かつた。そこで此の鼠の病氣が何う云ふ道で人間に傳染するかと云ふことに就て段々研究して見ました所が種々の原因もありますが、蚤が媒介をする場合が頗る多いと云ふことが明かになつたのであります。それは何う云ふ風に媒介をするかと申しますと、鼠が「ペスト」病に罹りますとその血液は「ペスト」菌を無數に含み、鼠の糞も小便も危險になりますが、鼠には蚤が寄生して居りまして、これが「ペスト」に罹つた鼠の血液を吸ひますと、「ペスト」菌が蚤の腹の内で繁殖致します。而して鼠が死んで體が冷えますと今まで寄生してゐた蚤が悉く離れます。その離れた蚤が人間について「ペスト」菌を注射すると人間にも「ペスト」病が起るやうになる、斯う云ふ順序で鼠の病氣を人間が引受けて大騷動が始まるのであります然し「ペスト」は皆蚤に依て媒介されると云ふ譯ではありません、肺「ペスト」は鼠や蚤とは直接の關係なく直ちに人間から人間に傳染致します。それから又蚤にも澤山種類がありまして孰れの蚤も皆「ペスト」の媒介をするわけではありません、唯腺「ペスト」と云ふ日本にこれまで屢々發生し、昨今又東京に發生しかけた腺「ペスト」は、鼠蚤、特に印度蚤と稱する種類のものに由て人間に傳染されることが最多い

と看做されて居ります。

右の次第でありますから、「ペスト」の流行しさうな際には有ゆる手段を盡して鼠狩をすると同時に蚤を退治することが必要であります。

蚤と云ふものは非常に種類が多く、各々宿主を異にし、種々面白い關係があり、特に「ペスト」と關係がある所から、動物學者、醫學者、又は物好きに蚤の研究をする人がありまして、今日では餘程能く分かつて居ります。有ゆる蚤の種類を擧げますと無慮五六百種にもなるさうでありますが、その中で鼠につくものが五十種ほどある。その中で又日本の鼠に發見するものは五種だけなさうですが、その中で一番「ペスト」に關係ありと認められて居るものは印度蚤と稱するものであります。これは元來日本固有の蚤ではなく印度、南部支那地方の「ペスト」の本場から來た蚤と見えまして、神戸とか大阪のやうな開港地だけに發見されるのですが、この蚤の發見される所は卽ち日本でも「ペスト」の流行地になつて居るやうなわけで、兎に角「ペスト」とは一番關係の深い鼠蚤であります。尙ほ蚤の發育、生活法等はなか〳〵興味のあることで、蚤を專門に研究した昆蟲學者もあり、蚤だけのことを書いた書物もある位ですが、左樣なことは一切略しまして、直ちに蚤退治に取かゝることゝ致します。

從來蚤の驅除法として行はるゝ方法も種々あるやうですが、孰れも確實なものではありません。その中でも除蟲菊の粉或は丁幾は僅かに有效なもので、蚤はこれに逢へば皆麻醉狀態に陷ります、然しこれを以て蚤を殺して仕舞ふと云ふ所までは行きませんから、除蟲菊の粉を撒布して「ペスト」豫防が出來るなどゝ考へては困りますけれども、兎も角も蚤が麻醉してゐる所をピンセットのやうなもので撮むで一々火にくべる、これを每日根氣よく反復すれば餘り大きくない室では二三日で捕り盡すことが出來ます。それでも跋扈するやうなれば、恐らく餘程塵埃が溜まつてゐるのですから疊を上げて數時間日光に曝ら

し、床の上を充分清潔に掃除して少しも塵埃の無いやうにし、新聞紙を敷いた上に樟脳又は「ナフタリン」の如きものを撒いて、疊を入れゝば、大抵蚤を防ぐことが出來ます、この位の事で蚤を防ぐことは出來ますが、扨て蚤を殺さうとすると、これは又甚だ困難であります。何分皮が硬く非常に抵抗力の強いもので、つぶされても皮さへあれば何時か身になると云ふ諺の如く驚くばかり強いものでありますから、普通傳染病の時に應用される昇汞水、石炭酸水のやうなものを撒布した所で何の效もありません。「ペスト」菌は死んでも蚤は平氣です。近來これが爲には隨分苦心して研究されましたが、何うも餘りうまい方法は發明されないようであります。尤も蚤をつかまへて試驗管などの中に入れて、種々の強い藥を注けたり、劇しい瓦斯などに逢はせれば殺すことも出來ませうが、これを實地に應用すると云ふ段になると、人間に危險があるとか、非常に費用がかゝるとか云ふことになつて、行ひ難ひ。その中で先づ一番簡單で經濟的で能く利くのは石油で、千倍位の水に石油を混和したものに蚤を入れても忽ち死んでしまふ、印度あたりで應用される「ペストリン」と云ふのも石油滓で、蚤の驅除には有效であるとのことである。それで外國では石鹼水に石油を混じ或は更にこれに「ナフタリン」を混じたもので蚤退治が行はれるが、我國に於ては何事にも仇になるのは例の疊であります。衞生學者の中には疊亡國論を唱へる人がありますが、實際始末の悪いもので、これを取拂はぬ限りは衞生も消毒もあつたものでないと嘆ずることが屢々であります。と云ふて差當り何とも致し方がありませんから、出來得るだけ石油石鹼を應用し、止むを得ぬ所は火を注意して揮發油、片腦油等を應用するが宜しからうと思ひますが、彼の便所などの消毒に良いと云はれる「デジンフエクトール」と云ふものも效があるとのことであります。最後に最も廣く應用がきいて最も經濟的で、最も根本的で、臭氣もなく火の危險もない蚤退治の妙法が一つあり

ます。それは夏の天日を應用することで、實際試驗した所に據ると、華氏寒暖計の百二三十度位の温度の時に、砂の上に蚤のついた敷物などを廣げれば、その中の蚤は二尺と動かぬ中に死んでしまふと云ふことであります。それですから、疊でも夜具でも襤褸でも天氣の時には悉く日に曝らすのが何よりも良い蚤退治の方法であらうと思ひます。

抄錄

都會と田舍に於ける兒童の遊戲

藪本肇述（兒童研究第十八卷第六號）

私共は、毎日御子様達を預つて居ますから父兄方から色々と成績についで御尋になりますが、身體のことにつきまして御尋になる方は、殆んど御座いません私は實に不思議に思ひます。又私が他の學校の體操や遊戲を見まして、受持の先生について兒童心身の様子に付て具體的のことを聞いて見ますと、明白な御答がありませんそこで私が考へますのに兒童の教育に當つて居る父兄方及教師がこんな風では、體操遊戲の教育は能なしであるまいか、是では何が目的で兒童をどんなに仕立てやうと云ふめあてが分らないかと思ひます。私は三年程前から兒童の身心の實際上の様子について調べて居ますが、田舍と都會の子供とは、色々の方面に異つた點が見出されます、例へば平生の遊び方に致しましても餘程異つて居ます、その遊び方の一例を十二三歳の子供に付て見ますとこんな風であります。（大正元年及大正二年度の二ヶ年に至つて調査したもの）。

大阪府天王寺師範學校附屬小學校調査

（尋五、六男）

學校

動的のもの

○鬼事	○野球	ぬうじゆう
○まりなげ	戰爭事	えんまこと
○庭球	目かくし	[illegible]事
かくれんぼ	○機械體操	○まりつき
ろくそく	すこぶ	○角力
旗取	○帽子取	軍艦遊
遊[illegible]	長[illegible]	ほたへごと
○廻旋塔	つけん	○ふツとぼーる
ノック	源平	まいつたこと
玉將取り	六色遊	○巾飛
だん/\上り	えびとび	

家　庭

動的のもの
かくれんぼう　まりほり　○野　球
鬼　事　○電車事　○汽車事
昆蟲取　兵隊事　竹馬事
○帽子取　○たこあげ　○郵便屋事
ノック　ろくしき　○玉つき
○ピンポン　○鐵亞鈴　軍旗取
魚釣り　ボートコギ　えんまはし
○庭　球　○足角力　すゝめうち
ゑびとび
靜的のもの
笛　類　紙鐵砲　○ちゑくらべ
軍人合せ　○行軍將棋　すごろく
○カルタ　花屋事　わくうつし
將　棋　學校事　メンダイシロク
○家族合せ　銀行屋事　幻　燈
寫　眞　字かくし　グウチヨツキ
銀つり　驅逐水雷　いろはかるた
○百人一首　バウズメクリ　○國旗合せ
○圍　碁　五丁並べ

（尋五、六女）

動的のもの
廻旋塔　固定圓木　隱れんぼう
鬼　事　繩　飛　はんば

學　校

めくらんぼう　お手玉　まりつき
じやんけん飛び　石けり　草履隱し
落し合ひ　木枝隱し　地面取り
一段二段　けん〳〵　おしれん坊
まねの仕合
靜的のもの
字隱し　電話遊戲　作法事

家　庭

動的のもの
鞦　韆　流動圓木　隱れん坊
鬼　事　繩飛び　けんば
落し合ひ　地面取　走り競爭
目隱し　隅取鬼事　おしれん坊
石けり　じやんけん飛び　草履かくし
おじく　瓢箪鬼事　お手玉
鞠つき　狐　事　お化事
影踏み　ピンポン　あて物遊び
渡り鬼事　下駄隱し　木村隱し
めんない
靜的のもの
電話遊び　家族合せ　すごろく
絲取り　かるた　樣なづけ
繪かくし　ぎつこんばつたん　御客遊び
琴遊び　字隱し　オルガン遊び
花合せ　學校事

大阪府泉北郡某小學校調査

（尋五、六男）

學校	動的のもの	角力	はしりごと	進擊
		どつき合	國取	旗取
		軍艦遊	戰爭ごと	陣取
		演習事	場所取	汽車遊
家庭	動的のもの	角力	輪まわて	陣取
		かくれんぼ	たこあげ	鬼事
		綱引	走り事	

（尋五、六女）

學校	動的のもの	まりつき	隱れん坊	といしごと
		お手玉	鬼事	
	靜的のもの	話事	家事ごと	
家庭	動的のもの	といしごと	おかたごと	お手玉
		まりつき	弟遊び	妹ごと
	靜的のもの	家庭事	本事	人形遊

この表にある樣に學校での遊が一週間以上續いたものは男生で三十二種類で、家庭内で遊んだものが五十一種で、其の中靜的の性質の遊びは二十六種類で動的の性質のは二十五種類でありました。之れと同時に泉北郡の高石小學校で調べて貰つたのは、學校で十二種類家庭で八種類で、全部動的の遊戲でありまして女子の遊は三種類丈け靜的のがありますが私の學校のは十二種類であります、要するに都會の子供の遊戲は田舍の子供よりも種類が多いが、靜的のものが多い。田舍の子供は、遊戲の種類が少ないが身體を大きく使つて遊ぶことが多く御座います。猶この遊戲の各個に付て精細に觀察すると精神發育上に於て面白い現象が窺はれますが省略致しまして御推察にまかしておきます。其の他都會の子供と田舍の子供は色々のことについて異つて居ますが、今は唯その一例を遊戲に付て丈け申し上げたのです、他は諸君の御研究にまかしておきませう。

雜報



○ペスト發生

本月に至り突如として日暮里にペスト患者を發生し、次で早稻田、神田、日本橋の各區に同患者を出

し、續々有菌鼠を發見すこは憂慮すべきことなり、帝都の中央に於て此の如き惡疫の跋扈するは甚だ遺憾なり。右に就き内務省衛生局にては、捕鼠に懸賞金制度を設くる事、全市並に近郊に殺鼠劑を配附すること、有毒瓦斯を用ひて殺鼠を勵行すること、而して今秋御大典終了まで捕鼠を續行することのベスト撲滅方針にて、大阪、神戸方面に於ても絶えず驅除法を行ひつゝある由なるが、此際妄に恐怖を懐くは愚なれども、市民各自に一層の警戒を要することなり。

○長壽者多き日本橋區

日本橋區は過般來區勢の調査に著手し市内萬般の統計を作製せしに、其戸籍に關する部分に驚くべき多數の長壽者あるを發見せり、即ち文化年間生れは百一歲七人、百二歲十三人、百三歲十二人、百四歲十五人、百五歲十一人、百六歲四人、百七歲九人、百八歲十一人、百九歲八人、百十歲一人にして享和年間の百十一歲三人百十二歲三人百十三歲三人更に寛政年間の百十四歲三人百十七歲一人百十八歲一人百十九歲二人百二十歲一人百二十一歲一人百二十五歲一人と云ふ實に百歲以上百十八の多數に上れり此の高齡者中最長老は兜町四平民小野清兵衛の祖母みわと稱し寛政元年十一月十日生れの百二十五歲なるが、清兵衛は相場師なりしが明治二十六年みわの孫貞之助徴兵適齡の際一家は踪跡を晦まして今は行衛を知らずと次で本石町四の三十七平民酒井半藏(百二十一)妻まつ(百十八歲)の老夫婦は何時の程にか同所を去り生死不明なれば或はまつの實家信州伊那郡追作村に現存するやも圖られずと、他の長壽者亦た殆んど轉々して行衛を知り難く恐らくは落魄の極行倒れとなり身元不明にて共同墓地の土と化せるものあるべく又た明治五年戸籍法實施の際本籍復本籍の兩途屆出なし爲に其死亡が一方の本籍に上らざるものあるべく或はまた何地にか長壽を保てるもこれあらんが概して百歲以上の人は所在甚だ覺束なく唯だ濱町一の三高見みねは百五歲の壽を全ふして昨

年二月遂に死し他に現存確實なる長壽者としては小網町三の八北村てる（九十四）數寄屋町六木田きし（九十二）川瀬石町二間宮きく（九十二）本小田原町七川口その（九十二）川瀬石町二長谷川きく（九十四）等にて孰れも矍鑠其壽を保ちつゝあり而も是等長壽者の總てが女性なるも亦一奇と云ふべし。

○兒童教養相談所の設立

日本兒童學會にては兒童教養相談所を設置し、異常の兒童と然らざるものとを論せずその教育及び養護の方針、職業の撰擇、其他實際の要項に就きて相談に應ずることゝなれり、其規則左の如し。

兒童教養相談所

日本兒童學會ニ兒童教養相談所ヲ設置シ、異常兒童ト然ラザルモノトヲ問ハズ

一、其教育及ビ養護ノ方針

二、職業ノ撰擇

三、其他實際上ノ要項

ニ就キテ相談ニ應ズベシ

右ニツキテ相談セント欲スル人ハ左ノ條項ニ準ジテ其旨ヲ本所ニ通ジ又ハ直接ニ本所ヲ訪ハルベシ

條　項

一、兒童ニツキテ相談セントスル人ハ、先ツ其要旨ヲ書面又ハ口頭ニテ本所ニ通セラルベシ（書面ノ場合ハ返信料送附ノ事）

一、本所ハ之ニ對シテ直チニ相當ノ挨拶ヲナスベシ。

一、本人ヲ診察シ又ハ本人ニ面晤スルノ必要アル場合ニハ時日ヲ指定シテ本人ノ同行ヲ乞フベシ

一、相談ノ報酬ハ通常金壹圓以上參圓以下トス。特別ノ調査ヲ要スルモノハ其報酬ヲ金參圓以上拾圓以下トシ、場合ニ應ジ之ヲ定ムベシ。商議ノタメニ要スル郵便料及ビ車馬料ハ依頼人ノ負擔トス

顧　問

東京高等師範學校教授　乙竹岩造

東京醫科大學講師　醫學博士　唐澤光徳

東洋大學教授　高島平三郎

東京女子高等師範學校講師　文學士　倉橋惣三

醫學博士　文學博士　富士川游

東京醫科大學助教授　醫學博士　三宅鑛一

東京女子高等師範學校教授　文學士　下田次郎

主　任

廣告

○私立大日本婦人衞生會總會

去月二十九日午後一時より麴町區永田町なる鍋島侯爵邸内に於て私立大日本婦人衞生會總會を開けり、此日は多少風だちたるも折柄の好天氣にて定刻前より三三五々會員の來會引きも切らず、さしもに廣き初夏の庭園花に花を加へ、三越少年音樂隊の絕えず奏づる輕快の樂につれて、をちの芝生、こちの樹陰に逍遙しつゝ鴛鴦顧歩し、蛺蝶徘徊するの風情、既に定刻に近づき總裁宮妃殿下には宮岡御用掛を從へさせられ御馬車にて御臨邸あらせらる、鍋島侯並に夫人、副會長以下玄關前に御迎申上げ、階上の御休憩室に於て、役員一同に拜謁せしめられたるが、直ちに階上大廣間に於て開會、會長鍋島侯爵夫人の開會の辭に次で副會長濱尾男爵夫人の挨拶あり、會員並に來賓の多數に來會せられたるを悅び、鍋島侯爵家の好意を謝し併せて會長の還曆を祝賀する旨を述べられ、次に幹事高木夫人より簡單に庶務會計の報告あり、役員改選の結果を披露し、それより幹事鳩山春子女史は例の快辯を以て本會の趣旨並に希望を述べられたるが、その大要は左の如くなりき。

或る書物に三つの衞生訓がありました曰く心の養生身の養生身代の養生であります此三つは循環して居るもので心が惡くなれば身が惡くなる、身が惡くなれば身代が惡くなる、身代が惡くなれば心が惡くなるの如く三養生は共に必要であると申しております、勿論事物皆例外はあります、彼の孔子の弟子の顏回は極貧なりしが心は高尙で賢なる哉回也と孔子が二度まで激賞されました又同氏は斯くまで心の高尙なるに拘らず身體が弱くてはやくなくなりました又富貴に生れたる人は身體が弱くても大概は貧乏になりません尤も是等は全體の國民の上から見ますればほんの少數でありますからこれは例外と云ふてよろしいので矢張最大多數の場合には此の三の衞生訓がよく當てはまるのであります、例へば茲に人あり其人の心の養生が不行屆であれば其人が逆境に在れば自暴自

棄に陥り悲觀して遂に其身體の健康を害ひ又順境に在れば人に誇り人を侮辱し或は怠惰に或は亂行に遂に其身を損ひ以て活動不適當となりませう人が活動し能はざる時は收入なくして支出が増加しますから自然と貧乏になります又古より恒産なきものは恒心なしと申しまして人が其毎日の衣食住に窮する樣になれば樣々の誘惑に打ち勝ち能はず生きんが爲に其非行を敢てするやうになりませう而して心が惡くなるのであります。

左れば吾人は心の衛生を考ふると同時に身體の衛生を考へ又吾人の家産を濫費せぬやう身代の衛生も考へねばなりません而して此婦人衛生會は實に此三つの衛生に適して居ります。

心の衛生の爲には私共は時々友人と會し智識を交換する必要があります然るに友人と交際するには婦人衛生會の如き目的を以て會合することが最も肝要で私共が無目的に會合する時は往々惡弊を生じ易いのであります或は衣服の競爭となり或は御馳走、土産物の競爭となり遂に其心配と其出費に堪へられぬやうになり永く交際を持續することが難かしくなつて再び引込み思案になりませう。

心身の衛生を研究する目的を以て婦人衛生會に出席する時は衣服の心配なく御馳走土産物の出費なきのみならず時々は經濟の話も聽き得て心身の健康を保つと共に自然に身代の健康も極めて好都合であります、よく世間で都合のよい事を一擧兩得と申しますが婦人衛生會に出席することは心と身と身代の衛生になりますから一擧參得となると申し得ることゝ考へます、それで爰に特に皆樣に申上たきことは本年は本會々長鍋島侯爵夫人の還暦に當たられますから本日は皆樣と爰に心から祝賀の意を表し同時に此機を善用して本會の發展を圖りたい事で御座います。

然ら顧れば私共は現會長を御願ひ申すに就き如何に熱心で御座いましたらう、今より十五年前明治三十四年二月本會役員會の決議に依り濱尾副會長と私は赤十字社へ參り侯爵夫人に御面會を願ひ會長の事を懇願致しました其際侯爵夫人の仰には既に幾多の婦人會に關係あれば此上新たに會長となることは家事上困難ならんとの事でありましたが、私共は此一應の御斷で斷念することが出來す更に御家令深川さんの處へ私が願ひに出づることに濱尾さんと御相談して御別れしました。

其後一兩日を隔てゝ忘れもしません大隈伯邸の火事の日で私は焚き出しなどして御見舞品を持せて上げたりして隨分疲れて居りましたが濱尾さんに御約束通り深川さんを御尋ねして侯爵夫人か會長を御承諾下さるやうに御勸誘を願ひました然るに同氏は斷乎としてそれは迚も出來ませんと御答へになりました、私は殘念で涙が流れました。

私は申しました「實は濱尾さんに私が必ず貴下に御願ひして參りますと御受け合ひして參りました、今日まで私が熱心になつた事で斯くの如く失敗した事はありませんが誠に致し方がありませ

ん」と申して玄關に出で車に乘らんとすると深川さんは私を送り來られ私の車の側に立つて申さる丶には「あなたがたの御熱心はよく分りました必ず御承諾になるやうに取計ひます」と御答へ下されました。私は夢かと計嬉しく歡極まつて其時既に日暮れて居りましたが直に濱尾さんの御宅へ參り委細御話して共に喜びました。

爾來日露戰爭等ありまして時勢は遺族と廢兵とか傷痍兵とか云ふ軍人に關する會の方に注意を吸收して內外婦人の交際會なりし月曜會の如きは消滅する位でありましたがその中にあつて婦人衛生會が軍人に關係なき會としては依然最大多數の會員を維持して居りますのは勿論總裁の宮妃殿下の御恩澤によることながら又會長の御蔭にもよると私共は感謝致して居ります本年は畏こくも陛下の御大典も擧行遊ばさる丶とて世間一般奮發して各々向上進步擴張發展を企て以て此好紀念となさんとし居る本會に取つても是れ慶賀すべき好機でありますから之を善用して益本會の發展を計り總裁宮妃殿下の御恩に酬ひ奉ると同時に斯くまで熱心に御依賴しました會長にも御滿足になるやうに致したいと偏に希望して已まないのであります何卒御列席の皆々樣には本會を御友人御知己に御紹介下されまして益本會の發展するやう御助力の程幾重にも〳〵懇願する次第であります、拙なき言を申上缺禮御免しを願ひます。

これを以て總會の式を終り、直ちに懇親の餘興に移り杵屋連の長唄石橋、大喝采にて暫時休憩。この間に本會の爲に盡されたる講師並に其他の來賓に茶菓を供したるが、岡田、富士川、千葉、藤浪等の諸博士、芳賀學士、三田谷ドクトル等も見えたり。暫くして再び餘興の教育活動寫眞を映寫し、辯士の說明に一同頤を解きたるが、既に閉會の時刻も迫りたるより餘興を中止し、總裁宮妃殿下には役員一同を從へさせられ暫し庭園御逍遙の後、御機嫌麗はしく御歸邸あらせられ、各自散會したるは午後五時過なりき。

それより役員一同は麴町區富士見町なる富士見軒に會長鍋島侯爵夫人を迎へて祝宴を開き、晩餐の後共立女子職業學校製作の緡細工及び造花を贈呈したり。尙は多年本會事務の爲に誠意執掌しつゝある藤村晴子刀自が本年偶〻還暦に相當するを知り、役員は直に協議の上當夜同席上にて刀自の爲に祝意を表せり。

尙ほ當日の總會並に懇親會の爲に左の御寄附ありたり。

一金壹萬疋　總裁　東伏見宮妃周子殿下
一金五圓　男爵夫人　濱尾作子殿
一金參圓　男爵夫人　南部隈子殿
一金參圓　仁禮壽賀子殿
一金參圓　西升子殿
一金參圓　濱田捨子殿
一金貳圓　羽田三緒子殿

○入會

○事務所申込

●福井縣武生町武生病院內　贊助員　齋藤喜之吉

○濱尾作子紹介
●小石川區原町一四六　特別會員　武田貢子

○岡田德子紹介
●麴町區下二番町七一　特別會員　早川さと子

○宮本樂子紹介
●神田淡路町一ノ九　特別會員　宮本菊子

○長谷川仲紹介
●本鄕區金助町　特別會員　入澤常子
●牛込區矢來町九　特別會員　田中さも子

○濱尾作子紹介
●小石川區原町三十一　特別會員　芳我三十子

○資格變更

通常ヲ特別ニ　弘世みつ子

○轉居

●小石川區大塚町四六　西山信光
●埼玉縣熊谷町外箱　田山梨識
●本鄕區西片町十　三田谷啓
●芝區三光町四五一　鵜原誠
●芝區二本榎町一ノ一七　阿部文五郎
●千葉縣千葉町寒川　弘世みつ子
●山形縣酒田町寺町二十七　淺田決

私立大日本婦人衛生會役員氏名

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵税壹錢

三册(三ヶ月分) 前金郵税共 金四拾五錢

十二册(一ヶ年分) 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字

壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢

○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正四年六月十七日印刷
大正四年六月二十一日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須町九番地 莊司秋次郎

印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 田中增藏

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

神經衰弱特効新藥

燐の神經を健全にし營養を增進するは醫學上確定の事實なるが如何にして吸收性同化性の燐を經濟的に作るべきやは一大難問なりき

農學博士鈴木梅太郎先生は其深遠なる生物化學的知識を傾注して研究の結果國産の原料を用ひて之を製出する方法を發見され**ユーキリン**と命名さる。

ユーキリン

ユーキリンは有機性燐化合物フヰトリン酸の石灰鹽なるを以て重要なる**燐療法**と共に有効なる**石灰療法**を併用するを得るが故に治療上の効果殊に著しく、能く一般の營養を增進し、骨の發育を助け、赤血球の增加を促し、胃消化を催進す、故に本劑は**神經衰弱、陰萎**及其他の**神經系疾患**に對し卓効を奏するのみならず、佝僂病、腺病、發育不全、重病恢復期、發育緩慢の小兒、結核性疾患、姙婦、授乳婦等に用ふれば營養を增進し體力を强健にす

詳細なる報文あり御申越次第贈呈す

定價

廿五瓦入	金七拾五錢
五十瓦入	金壹圓參拾五錢
百瓦入	金貳圓四拾錢
半磅入	金四圓八拾錢
錠劑百錠入	金八拾錢
膠囊百個入	金九拾五錢

東京室町

三共株式會社

婦人衛生雜誌第三百七號（大正四年六月二十日發行）明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可〔毎月一回廿日發行〕